

算数

➔ 1年生 | 「3つのかずのけいさん」

イメージ豊かに思考し、
生活の中に活かそうとする力を育む

3口の数の計算の学習では、式の意味を確実に理解させるため、問題を把握しやすくするための工夫が必要である。また学習の中で、イメージ豊かに、多面的に計算をとらえ、生活の中に活かそうとする力を育むため、**1～4**のことを実践している。

1. 答えを隠して、意欲を引き出す

最初は問題を把握しやすいように、絵や具体物を使って問題を提示する。ただ、答えが見えてしまうと、自分で求めたいという意欲につながらない。そこで、問題を把握する際に答えがわからないように隠し、「どうなるんだろう、求めてみたい!」という児童の意欲を引き出す。

2. 具体物を動かして、根拠を明確にして説明することで、確実な理解を図る

問題場面を把握する際、時系列に合わせてブロックを操作させている。そうすることで、増減の変化を意識しながら考えさせることができる。また、立式して計算する際にも、ブロック操作と関連づけながら説明させている。

立式については、
「式は、 $2+3-1$ です。わけは、はじめに2匹いて、次に3匹来て増えるから足し算で、そのあと1匹帰って減るから引き算になります。」

答えの求め方については、
「 $2+3-1=4$ です。わけは、まず $2+3$ で5、 $5-1$ で4だからです。」

というように、結論だけでなく、根拠をきちんと述べさせるよう指導している。根拠まで意識して述べることで、理解を確実なものにしたい。

3. 「式からお話を作る」活動を通して、イメージ豊かに思考する力を高める

3口の数の加法と減法の意味の理解を深めるために、3口の式から実際の問題場面をイメージして、お話を作る活動も大切にしたい。この活動で、イメージ豊かに思考する力が高まる。それ以外にも、計算が単なる数の操作ではなく、生活の様々な場面で活用されていることにも気づき、自ら学びを活かそうとする姿にもつながるのではないかと期待する。



4. 「答えを固定して様々な3口の数の式を作る」という活動を通して、数や計算の見方を広げる

<1～5の数を1回ずつ使って、答えが6になる3口の数の式を作ろう>という問題の場合、

$1+2+3$ 、 $5+4-3$ 、 $5+3-2$ 、
 $5+2-1$ 、 $4+5-3$ 、 $4+3-1$ 、
 $3+5-2$ 、 $3+4-1$ 、 $2+5-1$ 、…

などの答えの式がある。

これらの式は、既習の「数の合成、分解」の学習を活かすことで、考えつくだろう。

また、これらの式は、2口の式に直すと、 $1+5$ 、 $2+4$ 、 $3+3$ 、 $4+2$ 、 $5+1$ のいずれかになっている。そのことに気づくことができれば、さらに思考力を高められる。

子どもたちは、ひとつの答えから様々な式を作り出す活動を通じ、その楽しさを実感する。その実感が彼らの数や計算の見方をぐんと広げるだろう。